

「嘘をつくことは悪か？」

2014年3月15日(土)

会場：Ark Hills Cafe (六本木)

参加：16名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- 参加者 16 名で、二つの具体的な場面を設定し、その設定の中で「自分なら嘘をつくか」、「なぜそうするのか」、「嘘をつくことは人にとってどういうことか」、について主に対話し、考えた。

2. 対話：

(0) テーマについて

- 一般的に”嘘をつくこと”は悪いこととされているが、「実際にそれが規範になっているか？」また「なぜ悪いのか？」を具体的な事例を想定して考えてみたいと思う。

*) ここで“悪い”とは、「善くないこと」くらいの意味で対話を進めた。

(1) 事例 1：正式なダンスパーティーへ迎えに来た彼（女）の格好がかなりおかしなときにどう応えるか？

- 「個性的ね」と言う。できるだけ嘘をつきたくないから。
- 「髪型だけは直した方がいいかな」と言う。嘘はつきたくないということ、及び、パートナーである二人が変な眼で見られるという現実的なことを嫌うということの二つの均衡を考えたから。
- 「(自分が思う) 本当のこと」を言う。その方が二人の将来にとっては良いことであると考えから。

(2) 事例 2：ガンに罹って今夜限りの命と宣告された未亡人の叔母さんに愛犬の死を知らせるか？

- 「元気である」と言う。できるだけ本人を傷つけないから。
- 「うん、寝ていたよ」と言う。嘘をつきたくないということ、及び、叔母さんを傷つけないということの二つの均衡を考えたから。
- この場合は「本当のこと」を言う決心はなかなか出てこない。正しいと分かっている、それを言えば本人を悲しませると考えるから。

➤ ここまでの対話を振り返ると？

- 二つの事例には、大きな違いがある。前者では、自分がどう感じたかに基準があり、真実は自分にしか分からない。一方で後者では、医師の診断や愛犬の死という第三者にも分かる客観的な事実があるため、他の第三者からも真偽（嘘）は明らかである。
- 嘘をつかない場合は、嘘をつきたくないという考え、及び、嘘は相手や周りの状況にとって良くないという考えに根差していると考えているようである。一方で、嘘をつく場合は、相手やその周りの状況のために（その嘘が）良いと考えに基づいているようである。

(3) 曖昧な表現によって誤解させることは善いのか？

- 相手に嘘の事実を伝えることは念頭にはない。あくまで自分が嘘をつかないという点に力点がある。
- 自分は嘘をつかないという点で善いかもしれないが、相手に対して結果的には真実ではないことを信じさせる可能性があるという点でどうなのか。善悪をどう判断するのか。

(4) 人は元々嘘をつきたくないと思っているか？

- 人は元々嘘をつかないのが自然なのではないか。嘘をつくということはそのことを覚えたり、整合性を準備したりという、嘘に付帯した色々なことが生じるため、余分であって、なくて済むならそうしないことの方が自然であるような気がする。体は切っても自然の治癒能力で元に戻るが、積極的にそうする必要はないはずで、そういう意味では体を切ることと同じではないか。

(5) ファンタジーはどうか？

- サンタクロース等のファンタジーは嘘なのだろうか。ここにいる誰でも親からサンタクロースはいると説明されたはずだが、本当のことを親から聞かされないままに気づいたはずである。

(6) その他

- 嘘（をつくこと）は、他者がいるからではないか。

3. まとめ：

- 冒頭から具体的な事例を挙げて対話を進めてみた。論点を絞ることができ、思考を深く進めたように感じた。
- 嘘をつくときは多少は抵抗感を意識しており、良くないことという何らかの規範を意識しているようである。
- 嘘がなぜ悪かまでは対話が及ばなかったが、機会を改めて取り上げたい。

以上